



2020年5月26日配信 <<配信枚数 3枚>>

吉野川(紀の川)の源流でSDGsに挑む

大阪工業大学×奈良県川上村 連携授業「源流学」を開講

奈良県川上村(村長:栗山忠昭)は、本村と連携協定を結ぶ大阪工業大学(学長:益山新樹)ロボティクス&デザイン工学部の協力のもと、今年度から正規授業として「源流学」をスタートしました。3カ月間のカリキュラムで学生たちは、「水源地の村づくり」の課題を探り、「持続可能な村」を実現できる仕組みを考えます。

【本件のポイント】

- 連携協定を結ぶ大阪工大と協働で新しい体験的地域学「源流学」をスタート
- 吉野川(紀の川)の源流で豊かな環境の村の課題を学び、持続可能な村の仕組みを学生が考える
- 村長や村職員、村民と交流しながら、デザインやIoT活用のアイデアを提案



吉野川(紀の川)源流 水源地の森



川上村のSDGs スローガン

川上村は吉野川(紀の川)の源流で、豊かな森から生まれる水の恵みを下流に届ける使命を担っています。本授業は学生が水源地の村の取り組みを学び、人口減少や高齢化などの課題解決に積極的に寄与する能力や責任感を育成し、持続可能な社会が実現できるような価値観と態度を養う「持続可能な開発のための教育(ESD※1)」を行います。SDGsの達成を意識した持続可能な社会の理想像と暮らし続けられる仕組みづくりをデザインやIoTを活用して考え、その実現に向けたデザイン思考(※2)型ワークショップを行います。

6月8日、新型コロナウイルス感染症拡大防止によりオンライン授業で栗山村長が登壇。「川上村の水源地の村づくり～村づくりに込められた村長のおもい～」と題して、それまでに実施した講義でさまざまな視点から見てきた「水源地の村づくり」に込めた「おもい」を中心に**現役村長が語ります**。

1. 開催日時: 2020年6月8日(月) 17:10~18:50
2. 場所: Google Meet を用いたオンライン授業
3. 閲覧方法: 会議IDを発行します。本件発信部署までご連絡ください。

用語説明

※1 Education for Sustainable Development. 2019年12月に第74回国連総会で採択。持続可能な社会づくりの担い手を育む教育。

※2 デザイン思考とは①ユーザの観察と共感②課題抽出③解決のためのアイデア創出④プロトタイプング⑤検証を繰り返して行うことで、ユーザ視点のものづくりを実践するための手法。

■本件発行部署 取材・内容に関するお問い合わせ先

奈良県川上村水源地課(担当:加藤) TEL:0746-52-0111

Mail:m-katou@vill.nara-kawakami.lg.jp

奈良県吉野郡川上村大字迫 1335 番地の7

新しい体験的地域学

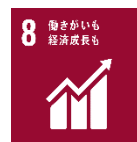
「源流学」が始まります



Q 源流学ってなに？

源流、それは水の生まれるみなもと
山があり、水があり、人の暮らしがあります。
そこには、長年息づいてきた伝統や文化があります。

川上村は、吉野川(紀の川)の源流に位置する村です。
人口減少・高齢化などにより、価値のあるモノ・コトが少しずつ衰退しています。
これを転換していくのは、次世代の若者です。
そのためには、まず源流の暮らしを知ることが大事と考えます。
座学で水源地の村づくりを学び、川上村の理解を深め、実際の地域現場に入り、
持続可能な暮らしを探ります。



そんな源流の暮らしを理解し、持続可能な社会を構築する人財を輩出すること、
それが「源流学」です。

Point1

大学の正規授業として開講!!

大工大ロボティクス&デザイン
工学部の必修授業として実施。
水源地の村づくりの取組を教材
に。

Point2

現役村長が直接講義!!

村長はじめ、役場職員・住民・
関係人口の多様な視点から講
義。
水源地の村づくりから学ぶ人
生の生き方。

Point3

村と大学の双方が学び場!!

3か月間のカリキュラムの中、
梅田キャンパスでの川上村につ
いての座学、そして村での
フィールドワークの構成。
相互の行き来で新たな官学連携

川上村の資源を教材に



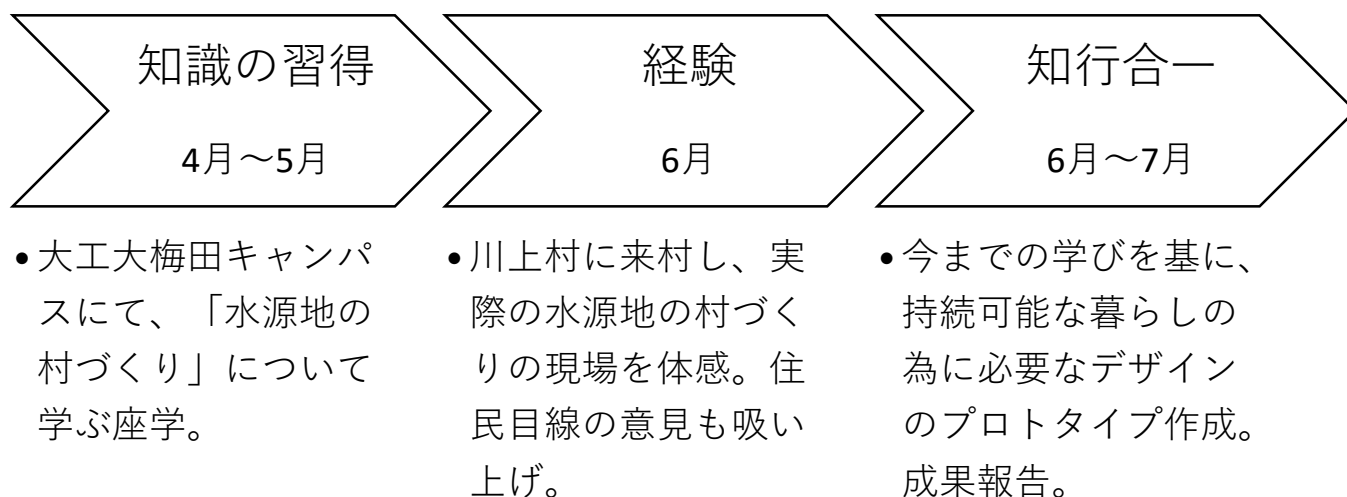
●目標

大阪工業大学と川上村の連携を重視した様々な形態の学習活動を通して、**他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性**を認識し、「**かかわり**」「**つながり**」を尊重する態度を養う。また、社会課題に積極的に寄与する能力、**責任性**を育成し、**持続可能な社会**が実現できるような価値観と態度を養う。

●具体的なねらい

- 1 知識のインプットだけでなく、経験を組み合わせ、**生きた知識**の習得につなげる。
- 2 川上村の自然資源(源流)・人工資源(ダム)・社会資源(人)を活用することで、源流部を知り、その環境を理解し、課題を発見し、必要とされるアイデアについてデザインとIoTの側面から考え、ユーザー目線のデザイン思考力を養う。
- 3 人間関係を築く力、社会に参画し寄与する態度、規範意識や公共心の育成を図る。
- 4 自己の生き方・在り方を考え、様々な人と接することで、自尊感情のある自立した個人の確立を目指す
- 5 **SDG s** の達成を意識し、**ESD**を視野に、単なる地域紹介・オリエンテーションにとどまらず、持続可能な社会の理想像と暮らし続けられる仕組みづくりについて考え、その実現に向け、デザイン思考のワークショップを行い、**持続可能な社会の担い手**としての意識を育てる。

●授業スケジュール



●取組の特色

- ・大阪工業大学と奈良県川上村の連携協定を基盤とした、地域と密接に連携した活動である。
- ・川上村に関する講義の講師は、村長・村役場職員・関係機関職員・地域おこし協力隊・村民にて構成。
- ・大学における正規授業の枠組みであり、官学連携の新たな形となる。